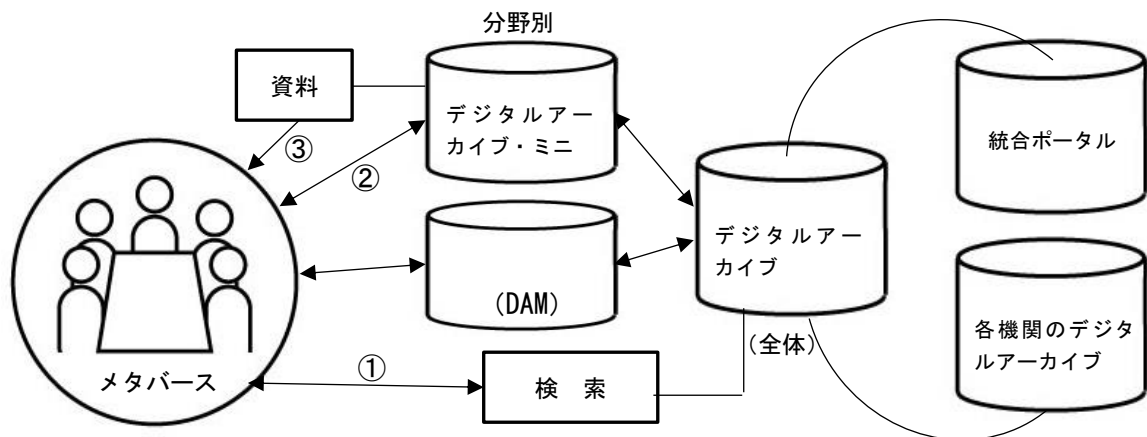


## メタバースでの利活用を配慮した デジタルアーカイブ・ミニ (DAM) の構成

久世均、林知代、谷里佐、櫛彩見、齋藤陽子、木幡智子、横山隆光 (岐阜女子大学)

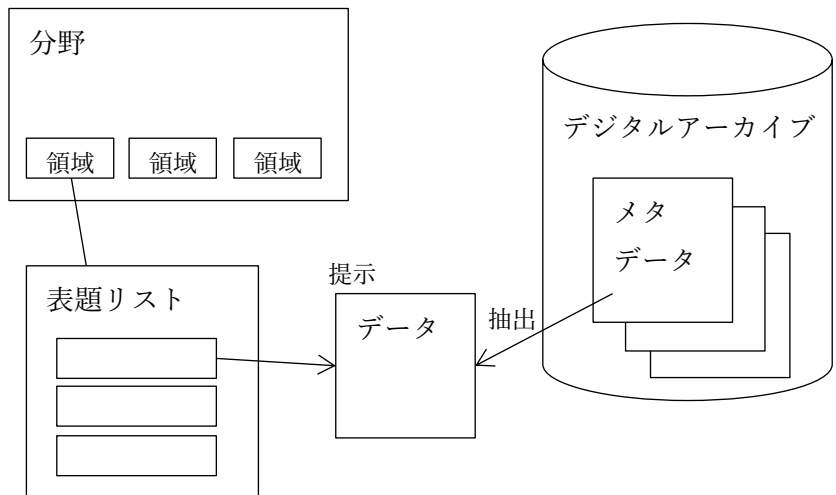
デジタルアーカイブの利活用は、Bellinger の DIKW モデルを基本として資料提示 (データ)、問題解決 (情報)、知的創造 (知識)、知 (知恵) の観点で、谷・櫛等が活用研究を進めた。そこで使うデータの提供はデジタルアーカイブから必要なデータを選定し、デジタルアーカイブ・ミニ (DAM) としての提供がなされだした。今後メタバースでも、教育・問応答で、多くの人々が使うデータとしては、次のような分類ができる。

- ① デジタルアーカイブ (機関、学校等) から検索・活用 (研究・創作活動等で)
- ② デジタルアーカイブ・ミニ (DAM) 利活用に必要とされるデータの選択提供
- ③ 1 資料の提供 (特定の書籍資料、映像等の提供)

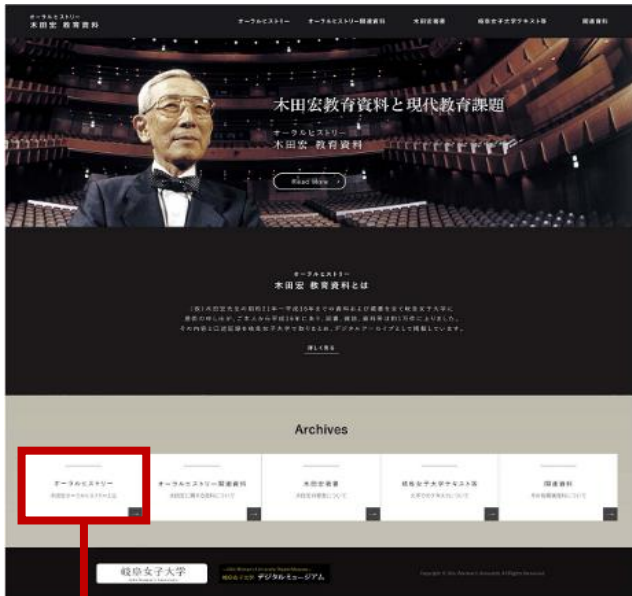


今後、メタバース等では、利活用の利便性から、分野別に活用を配慮・整理した②の活用が多くなると考えられる。

例えば、次の図に示すように、利活用の分野に関係のある資料 (データ) の表題と領域別のリストを作成し、デジタルアーカイブに記録されているコンテンツを抽出 (リンク) できるようにしている。







木田宏教育資料では、次に示すように、「木田宏教育資料と現代教育課題」を分野として、5つの領域に分けて、コンテンツの表題リストを提示し、リストの中から調べた資料を選定（リンクの表題をクリック）すればデータが表示できる。



リスト提示

### オーラルヒストリー

- ◎ 1.1 「木田宏オーラルヒストリー」 岐阜女子大学①   
(2004年6月27日) 岐阜女子大学文化情報研究センターにて  
(文部省入省、憲法、民主主義、教科書制度、カリキュラム)
- ◎ 1.2 「木田宏オーラルヒストリー」 岐阜女子大学②   
(2004年6月28日) 岐阜女子大学文化情報研究センターにて  
(教育委員会制度)
- ◎ 1.3 「木田宏オーラルヒストリー」 岐阜女子大学①  
(2004年6月27日) 岐阜女子大学文化情報研究センターにて  
映像
- ◎ 1.4 「木田宏オーラルヒストリー」 岐阜女子大学②  
(2004年6月27日) 岐阜女子大学文化情報研究センターにて  
映像
- ◎ 1.5 「木田宏教育資料オーラルヒストリー」 岐阜大学①   
(文部省入省、憲法、民主主義、教科書制度)  
(1995年11月29、30日)岐阜大学カリキュラム開発研究センターにて
- ◎ 1.6 「木田宏教育資料オーラルヒストリー」 岐阜大学②  
(教育委員会制度の導入と定着)  
(1996年5月21、22日)岐阜大学カリキュラム開発研究センターにて
- ◎ 1.7 「木田宏教育資料オーラルヒストリー」 岐阜大学③   
(教職員組合について)  
(1996年5月22日)岐阜大学カリキュラム開発研究センターにて

出力例

木田宏先生を偲んで ～「木田宏オーラルヒストリー」より～

6. 教育委員会制度① (昭和23年～)

6-1. 第1回日米フルブライト交流

【木田】  
それじゃあそろそろ、おしゃべりをしましょうか。  
こんなことでいいのかな、どうもだらしのない話をしゃべっているみたいだけれども。  
最初にフルブライトでアメリカへ行ったときは、これは昭和29年ですから、文部省が英語の視学官と職業の視学官と私をほうりこんで、最初のフルブライトに入れてくれたんですね。  
このときは、私には初等中等教育局の地方課の補佐という肩書がありまして、恐らく文部省も先々教育委員会制度を何とかしなきゃならんということで、教育委員会を見てこいということだったと思います。  
英語の先生や職業の先生は、それぞれの学校にアサインメントをもらって、半年ほど、それぞれの学校で専門の勉強をされたわけなんです。  
私はどこという指名はないんで、教育委員会を見てこいというわけですから、半年間、アメリカ中を旅行したんですね、それで一番参ったのはやっぱりお金です。1日8ドルフルブライトからもらって、大学におる分ならそれでいいんですけどもね、外のホテルへ泊まって好きなことをしろといってもね、先立つものがどうにもならん。  
だから、これは幸か不幸かですけども、ワシントンに最初入りましたときにね、英語が大体できないわけですよね、十分に。だから、こんなもんでその歩かれても迷惑だということで、OKするまで英語の練習をしろと言われて、ワシントンで4週間、5週間だったかな。向こうがテストをしてOKと言うまで、ワシントンで英語の勉強をさせてもらいました。それは昭和28年から29年のときですね。  
ちょうどワシントンDCの中に向こうのオフィスもあるわけですから、ワシントンDCの生活をしていたんですが、そのころ、どんどんどんどんとアフリカの色の黒い人たちが中南米、アフリカからワシントンの市内に入ってきて、そして、アングロサクソン系の人だんだん郊外に逃げていく。そういう時期だったんですね。  
その道路の向こう側、南米から来たような人たちの果が、新宿のあそこらみたいな形で始まりつつあったもんで、私なんか外へあんまり出れない。表向き下を見るとアングロサクソンが動いている。裏から下を見ると色の黒い人が動いているというようなワシントンでの生活をやらせてもらいましたが、

外の分野でも同様に文書、映像、音声等で構成された、デジタルコンテンツをメタバースで利用することができる。